RSI

（相対力指数　Relative Strength Index）

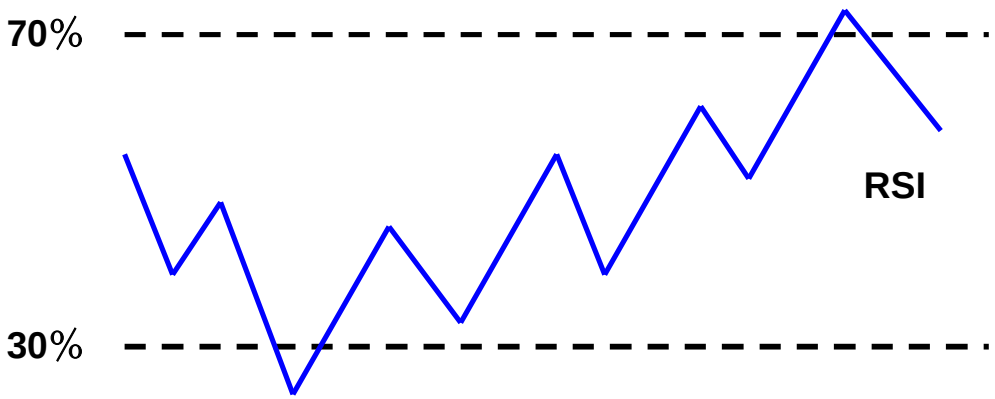
１．RSI の性質

オシレーター系チャート（「買われ過ぎ」、「売られ過ぎ」の状況を指数で表示するもの）で、ここ何日間の価格の位置が相対的に高いレベルにあるのか、低いレベルにあるのか、それを 0～100%の数値で表します。
（J・ウェルス・ワイルダー氏により考案）

ワイルダー氏は 14 日間が最適とし、こうして求めた RSI は以下のように判断されます。

30%以下なら売られ過ぎ

70%以上なら買われ過ぎ



Copyright(C) 2006 FPnet Co.,Ltd. All rights reserved.

２．買いと売りのタイミング

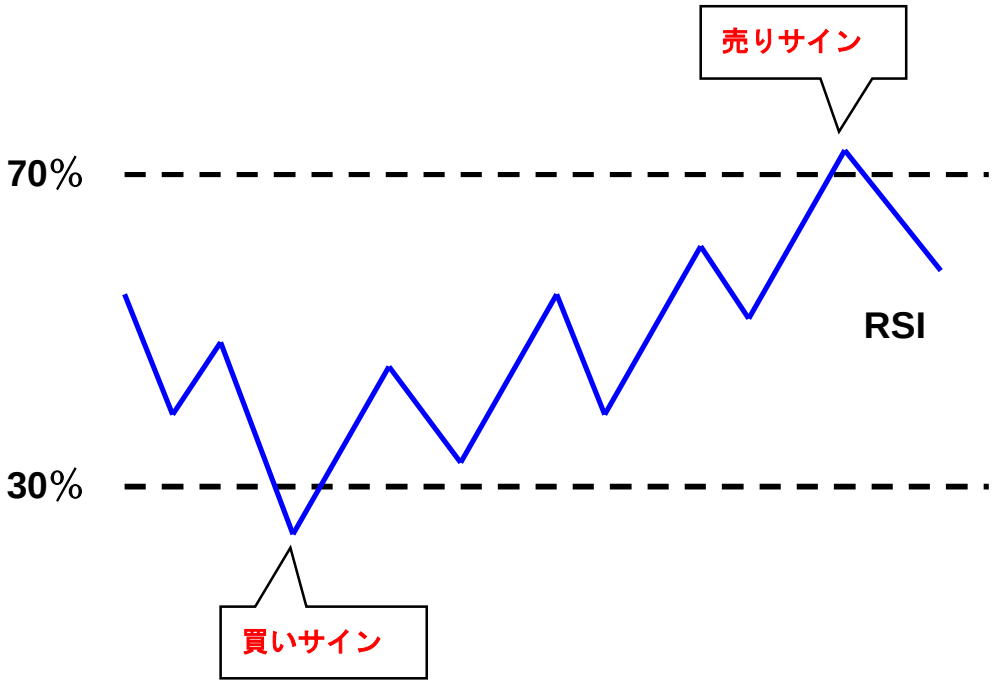
相場の「買われ過ぎ」、「売られ過ぎ」の状況を把握し、相場の行き過ぎた状況を利用する指標のため、逆張り手法が一般的な活用法となっています。

買いサイン

RSI が 30%以下を割り込んだ時

売りサイン

RSI が 70%以上を上抜いた時



Copyright(C) 2006 FPnet Co.,Ltd. All rights reserved.

３．数式・その他注意点

14 日間の RSI

$$RSI = \frac{A}{A + B} \times 100$$

Ａ　＝　14 の値上がり幅の平均
（14 の前日比値上がり幅の合計を 14 で割る）

Ｂ　＝　14 の値下がり幅の平均
（14 の前日比値下がり幅の合計を 14 で割る）

期間は 14 日間でなければならないという訳ではなく、任意の期間の RSI を求めることができますが、**対象期間が長すぎると反応が鈍くなり、短すぎると敏感に反応しダマシが出やすくなる**と言われています。

RSI の注意点としては、**上げたり下げたりする相場では有効**ですが、価格が一方行に上げ続けたり、下げ続けたりする場合は 70%以上・30%以下をつけ続けることもあり、必ずしも有効とは言えない点があります。

このダマシを回避するには、以下の方法が考えられます。

1.いくつかの期間（例えば 5 日、9 日、14 日など）を並べて判断する。
2.RSI が 30%を下落してなお且つ RSI の数値が反転してから買い場とする。
3.買い場を 20%にしたり、売り場を 80%にするなどその銘柄の特性に合わせる。

Copyright(C) 2006 FPnet Co.,Ltd. All rights reserved.